

2023年7月15日発行（季刊）



# う 羽 化 か

ISSN1880-8646  
2023年7月  
第126号

漢 点 字 羽 化 の 会  
〒231-0063 横浜市中区花咲町1-46-1-1105 Tel 090-9003-7279  
発行責任者 代 表 岡 田 健 嗣  
編集責任者 木 下 和 久

ほら お星様だよ



## 目 次

漢点字の散歩（62）（岡田健嗣） .....	1
点字から識字までの距離（119）（山内 薫） .....	8
編集担当者交代にあたって（木下和久） .....	14
漢文のページ .....	15
ご報告とご案内 .....	17
編集後記（宮澤義文） .....	19

# 漢点字の散歩

(六十二)

岡田 健嗣



## カナ文字は仮名文字 (13)

伊藤博先生の『萬葉集釋注』の漢点字訳を終えて、私達視覚障害者も、「万葉集」に触れることができるようになりました。これまででは、「万葉集」という歌集のあることは知っていても、どんなものか、実際に読むことはできませんでした。それが初めて手に取って、読むことができるようになりました。今後はこのような書籍を数多く漢点字訳して、視覚障害者の歌人や研究者への資料の提供が進むことを願って止みません。

『萬葉集釋注』の漢点字版を製作するに当たって、その困難さを考えました。何と言っても難解な漢字ばかりの原文です。そこでその底本に文庫版（集英社文庫）を選びました。この文庫版の特徴は、全体を簡易な体にするために、原本であるハードカバーにある、

「万葉集」の原文を省略して、現在私どもが読んでいる形態の読み下し文だけが収められていることです。しかしながら漢点字版の製作に当たっては、それでも歌の部分だけでも原文を入れたいと考えて、歌の部分は原文も見ることができるようにはお願いしました。これは大変素晴らしい試みでした。原文と読み下し文を対比しながら読むことができることは、原文を如何にこのように読み下しているかを考えることになります。このことは、私にとっても思いの外重要なことであることを知らされた思いを抱きました。

前回まで考えて来たことは、私達の先達である万葉人が、何時、どのようにしてカナ文字の必要性に気づき、どのようにそれを案出し、それが現在私どもが使っているカナ文字に繋がって来たかというその発端のところについてでした。もともと発端とも言えない、ちよつとした手がかりを求めた程度でしかなかったかもしれません。カナ文字の必要性に気づき、それを案出し、漢字仮名交じり文という現在行われているわが国の文字表記の基礎を築いたのは、この万葉人に他なりません。それと同時にこの「万葉集」では、外来の文字である漢字をわが国の日本語に読み下すとい

う、ほとんどアクロバットと言つてよい方法である漢字の訓読が縦横に駆使されて表記されていることを、忘れてはなりません。私も「漢字」と言えば、音読と訓読という二通りの読みがあるということを、自明と考えがちです。しかし、これは現在行われていることを前提に千数百年を遡つて推し量ることを意味します。カナ文字は存在せず、カナ文字があつて初めて可能なはずの発音だけを表す方法を持たない中で、外来の文字である漢字に日本語の読みである訓読を与えるということが行われたこの事実を、私達はどのよう  
に受け止めるべきなのか、思考の停止を余儀なくされる思いがします。

漢字の読みと言えば私は、漢点字の活動を続けて参りましたが、読書は、音訳書の聴読にも多くを頼つております。音訳という方法も、かなりの技能を必要とするお仕事です。発声や発音という肉体的な訓練は勿論のこと、もつと大事なこととして、書かれている文字・文章を正しく音声化するという、文字の読みそのものの知識を如何に充実させるかという、当然と言えば当然のことではありますが、資料に当つて調べながら正しく読むことを追求することは、並大抵のことでは

はないことと推量します。

と申すのも、私は漢点字の活動をしておりませいか、漢字の読みについて、つい観察してしまします。音訳者の皆様には誠に申し訳ないことですが、つい読みの間違いに気づいてしまうのです。たとえば、癌の話の中に、「ゾウオ」という熟語が出てきました。

「ゾウオ」という音の熟語は「憎悪」と理解されま  
す。「悪」という文字の音読に「オ」という読みがあるからです。しかしこの文章は癌の治療について述べられて  
いるものですので、「憎」という文字の入り込む余地は  
ありません。そうしますと、「わるくなる」という意味の「増悪」という熟語が想起されます。

「増悪」は「ゾウオ」ではなく、「ゾウアク」と読まなければならぬ  
熟語です。「悪」に「アク」という音読がありますのと、「わるくなる」という意味であろうことが文脈から想像されますので、「ゾウアク」と読む熟語であらうと想像されました。

そこで「悪」という文字について調べますと、訓読は、「わるい」と「にくむ」の二つが主な読みで、それを文字の意味として捉えて音読の熟語を見ますと、「わるい」という意味の熟語は「悪疫（アクエキ）」

「罪悪（ザイアク）」「険悪（ケンアク）」など、「にくむ」という意味の熟語は「好悪（コウオ）」「嫌悪（ケンオ）」「憎悪（ゾウオ）」などが挙げられます。大体これで、「アク」と読むと「わるい」という意味、「オ」と読むと「にくむ」という意味と理解してよいと結論づけられそうに思われます。

ところがこれだけでは済みませんでした。「悪寒」は「オカン」と読みますが、「風邪を引いて発熱する」などして、寒気がして身体が震える」という意味となります。「悪心」は、「オシン」と読むと、「心持ちが悪く、吐き気を催す」という意味に、「アクシン」と読むと、「悪い心、悪事を働こうとする心」という意味になります。「オ」の音読は、「にくむ」を意味するばかりでなく、「気持ちが悪い、心持ちが悪い」という意味を表しても用いられるのです。

さらにもう一つ、ずっと以前に使用された使用方法として、平治の乱で敗北した源氏の大將の源義平は、「悪源太（アクゲンタ）」と呼ばれましたし、また、南北時代の南朝の武將である楠木正成は、「悪党（アクトウ）」と呼ばれました。ここで言う「アク」は、「悪事・悪人」の「悪」ではなく、すぐれて豪毅な者

という意味として用いられていると言われます。また、漢文訓読では、推量の助動詞「いづくんぞ」と読み下されます。

もう一つ文字の例を挙げますと、「封」には、「フウ」と「ホウ」という二つの音読があります。「フウ」は呉音、「ホウ」は漢音です。呉音と漢音は音は異なっていますが、意味は同一であるというのが一般ですが、この文字に関しては、注意が必要です。

「封ずる」を「フウずる」と読む場合は、「封印」「封入」「密封」「封じ込める」など、「蓋を閉じる、口を閉ざす、中に閉じ込める」という意味を表します。閉ざされた中に入れて外からは見えないようにする、あるいは中に閉じ込めて外へ出られないようにするという意味となります。この文字の使用法としては、この「フウ」の音読が一般的と思われる。

しかしこれを「ホウずる」と読みますと、古代の中国において、諸侯に、天子から褒賞として領地を与えることを言います。領地を下賜してその領地を諸侯に統治させることで、諸侯に権限を持たせて、天子は間接的に統治する形となります。このように、当時の国家の統治の仕方は、一人の天子の下に複数の部下（諸

侯)がいて、その部下一人一人に領地を与えて統治させて、その部下(諸侯)を天子が束ねる形式を取ってしました。そのような制度を「封建制」と言います。「封建的」と言うと、古めかしい、権威主義的という意味として使われますが、天子が国を治める場合のありかたとして、国の各地域を天子に代わって、諸侯に治めさせる制度のことを言います。本来古めかしいとか権威主義とかの意味はありません。序でに言えば、この「封建制」に対立する概念は、秦の始皇帝が敷いた「郡県制」で、極めて強権的な中央集権の制度のことで、決して民主制ではありません。

このように「封」という文字の音読は、「フウ」と読むか「ホウ」と読むかで、その意味する所が変わって来ますので、音訳者の皆様に置かれましては、特に中国の古い時代をテーマに据えた書籍の音訳に当たっては、注意をお払いいただきたいと存じます。

以上挙げました二つの例のように、漢字にはどの文字を取ってもその読みや使用方法には、一定の幅があり、その間を往還する揺らぎがあるようです。恐らくこのことが、漢字の分かり難さとなって私どもを困惑

させるのではないかと思われます。音訳書の聴読から漢字の意味を考えて見ましたが、現在でも漢字の読みと意味にはこれだけの幅があることを思いますと、まだ音だけを表す文字のなかつた「万葉集」の時代に、訓読がどのように成立して来たか、想像を巡らせて見たいと思います。

「訓読は当て字だ」という見解があります。つまり当時の日本語に漢字の音を当てたのが訓読だと言うのですが、当て字とはどういうものでしょうか。『広辞苑』を引いて見ますと、

《当て字・宛字(あてじ)…漢字のもつ本来の意味にかかわらず、音や訓を借りてあてはめる表記。また、その漢字。「野暮(やぼ)」「芽出度(めでたし)」の類。》

とあります。「当て字」とは、漢字の持つ意味にかかわらずとあります。して見ると訓読は、文字の意味そのものとも言える読みですので、「当て字」ではないと考えるべきかもしれません。古代から現代に至るま

で、中国ばかりでなく、朝鮮半島やモンゴルに住む人々とのコミュニケーションに、わが国の人々は筆談を使用して来ました。それは「漢字」という表意文字を、音声言語では叶わないコミュニケーションに、音声による読みではなく、それが表す意味によるコミュニケーションのツールとし得たことを意味します。その訓読が、音声を表す文字のなかった「万葉集」の時代に既に存在したという事実は、驚くほかないのですが、ここをもう一つ想像を逞しくして、「万葉集」が現在の形になって、私どもにも読めるようになったプロセスを、『広辞苑』の記載を通して振り返ってみていきたいと思います。

まず「万葉集」についての記載は、

《万葉集（まんようしゅう）…（万世に伝わるべき集、また万（よろずの）葉すなわち歌の集の意とも）現存最古の歌集。二〇巻。仁徳天皇皇后の歌といわれるものから淳仁天皇時代の歌（七五九年）まで約三五〇年間の長歌・短歌・旋頭歌（せどうか）・仏足石歌体歌・連歌合せて約四千五百首、漢文の詩・書

翰なども収録。編集は大伴家持（おおとものやかもち）の手を経たものと考えられる。東歌（あづまうた）・防人歌（さきもりうた）なども含み、豊かな人間性にもとづき現実に即した感動を率直に表し、調子の高い歌が多い。≫

とあります。仁徳天皇の時代とは、その皇后である磐姫皇后（いはのひめのおほきさき）の御歌を指しています。三五〇年間に作られた歌とありますが、実際は壬申の乱以降からと考えられていますので、百年足らずの間に作られた歌と考えてよいようです。

しかしその表記は、まだ音だけを表すカナ文字は現れておりませんので、カナ文字のない表記、そして漢字の音・訓を後のカナ文字のように使用した音仮名・訓仮名と呼ばれる漢字が使用されました。そのようにして表記された歌集ですので、それを読める人は非常に少なかったもので、平安時代に入って村上天皇の命を受けて、読み下しが試みられました。「古点」と呼ばれます。『広辞苑』の記載には、

《古点（こてん）》…（前略） 九五一年（天曆五）から源順（みなもとのしたごう）ら梨壺（なしつぼ）の五人が「万葉集」につけた訓点。》

《梨壺の五人… 九五一年（天曆五）梨壺に置かれた撰和歌所の寄人（よりうど）。すなわち後撰集の撰集と万葉集の付訓に当った、大中臣能宣・清原元輔・源順（したごう）・紀時文・坂上望城（もちき）の五人の称。》

とあります。『後撰集』についても触れれば、

《後撰和歌集（ごせんわかしゅう）… 勅撰和歌集。三代集の第二。二〇巻。九五一年（天曆五）大中臣能宣（よしのぶ）・清原元輔・源順（したごう）・紀時文・坂上望城（もちき）（梨壺の五人）が撰進。古今集に採り残された貫之・伊勢以下情趣的な歌が多く、撰者の作品はない。後撰集。》

とあります。『古今和歌集』に次ぐ勅撰和歌集です。その撰者である「梨壺の五人」と呼ばれた五人の学者

が、「万葉集」に訓点を付けたと言われます。ここから私どもの読める「万葉集」が誕生したと言っても過言ではありません。

ここから始まって、時代が下るに従って訓点は以下のように進められました。『広辞苑』には、

《次点（じてん）》…（前略） 万葉集訓点の一。

古点（後撰集の撰者梨壺の五人の訓点）について、仙覚が新点を付けるまでの間、すなわち平安中期から鎌倉初期にかけて付けられた訓点。大江佐国（すけくに）・惟宗孝言（これむねのよしとき）・大江匡房（まさふさ）・源国信（くにざね）・源師頼（もろより）・藤原基俊（もととし）・藤原清輔（きよすけ）らが試みたという。》

《新点（しんてん）》… 一二四六年（寛元四）仙覚が古点・次点のなかった万葉集の歌一五二首に加え、また古点・次点を改めたという訓点。》

とあります。仙覚については、

《仙覚（せんがく）》… 鎌倉中期の学僧。常陸の人。権律師。鎌倉の僧坊で万葉集の校訂・注釈に没頭。従来無訓の歌に新点を加え、古点・次点を正すなど、万葉研究史上に一時期を画した。著「万葉集註釈（別称、仙覚抄）」など。（1203～1272以後）≡

とあります。

「万葉集」の原文は全てが漢字で表記されていて、歌の部分以外、題詞と左注は漢文で、また歌は、文字は日本語の配列ではありますが、漢字で表された部分と、漢字音で音を表す部分とからなる表記になっている。注釈なしでは読み切れないものとなっている。残念ながら私どもには資料として手に入れることはできませんので、どんなものか知ることが叶いませぬが、「訓点」として注釈を付けたのがこの「古点」「次点」「新点」だと記されています。現在私どもが読んでいる「万葉集」は、このようにして読み継がれて、現在では読み下し分として手に取ることができるようになっております。その後も『広辞苑』にも、

「万葉集」を冠した研究所・解説書が多数紹介されており、恐らく新しい読みも、多数試みられているものと思われます。

「万葉集」の表記法の変遷は、まずカナ文字で表記されるべき送りがな・助詞・助動詞を省略して文字に表さない表記（略体表記）が最も初期で、その後送りがな・助詞・助動詞を表すための音だけを表す漢字（音仮名・訓仮名）の挿入された表記がなされました。略体表記は人麻呂歌の極初期のものに見られて、人麻呂の私的な作品に見られるものです。送りがな・助詞・助動詞を音仮名・訓仮名で表した表記は、持統朝・文武朝の宮廷歌に使用されていて、宮廷歌には、略体表記は使用されることが分かります。略体表記は、あくまで人麻呂の私的な表記法だったのかもしれない。

「万葉集」の後半になりますと、漢字の読みも使用されず、また訓仮名も使用されず、音仮名だけの表記の歌も現れて来ます。このような文字が、「万葉仮名」と呼ばれます。

「万葉集」は八世紀の半ばに成立しますが、その後



は勅撰和歌集である『古今和歌集』（九一四年）まで、まとまった歌集は編まれませんでした。その百数十年の間に、「万葉集」で磨かれた短歌と万葉仮名が、和歌として、またカナ文字として自立して、和歌と文字の形式を確立しました。

『古今和歌集』以後カナ文字表記中心の時代に入りますが、それに平行して、漢文脈の流れも脈々と続いて、双方がフィードバックして、漢文脈は和漢混淆文に、カナ文字表記の和文脈は、漢字に置き換えられる部分に漢字を当てた表記となりました。そして明治に至って、現在私どもが見る漢字仮名交じり文が成立しました。こうして「万葉集」も、本来の姿とは異なる漢字仮名交じり文として、私達は読むことになりました。

『萬葉集釋注』を見ながらつくづく思うことは、原文はそのままでは読むことはできませんが、万葉歌を讀み下し文だけで読むのではなく、そこに原文を置いて讀み返すことによって、讀み下し文の味わいも、何か深まるような気がして来ます。

## 点字から識字までの距離（一一九）

山内 薫

読むことに障害のある子どもへの

読み聞かせ・本の紹介十三の方法（一）

東京都立多摩図書館が二〇一三年に刊行した冊子『特別支援学校での読み聞かせ―都立多摩図書館の実践から』は、同図書館が二〇〇五年から八年間に渡って実践してきた都立特別支援学校との連携事業の成果をまとめたものだ (<https://www.library.metro.tokyo.lg.jp/uploads/tokubetsu.pdf>)。

都立特別支援学校の幼稚部から高等部までの幅広い子どもたちに絵本を讀んできた経験からまとめられたこの冊子の目次は

「I、特別支援学校での読み聞かせ 六つの方法」

「II、知的障害・肢体不自由の子供たちへの読み聞かせ」

「III、聴覚障害の子供たちへの読み聞かせ」

「IV、視覚障害の子供たちへの読み聞かせ」

「V、新しいメディアアーマルチメディアDAISY」の五部構成になっている。中でも「II、知的障害・肢体不自由の子供たちへの読み聞かせ」が七割以上のページを占めている。ちなみにIIでは八四冊の絵本、IIIでは一一冊の絵本、IVでは三八人の子供たちに喜ばれたお話が紹介されている。絵本一冊一冊についてあらすじや概要と実際にどんな風に読んだら喜ばれたり、反応があったかが具体的に記されていてとても参考になる。

この冊子の冒頭「I、特別支援学校での読み聞かせ六つの手法」は特別支援学校だけではなく、特別支援学級や通所支援事業などで絵本などを読むときの注意点を述べていて注目した。六つの手法とは「一 寄り添って読む」「二 一部分を読む」「三 ダイジェストで読む」「四 読んだことを体験する」「五 クイズをしながら読む」「六 繰り返して読む」の六項目である。

例えば「ダイジェストで読む」には次のような解説が付いている。「文章通りに読まれると、理解できない子供、最後まで聞くことが難しい子供には、ストー

リーをかいつまんで話したり、言葉をやさしく言いかえたりして、読みましょう。ストーリーの本筋に沿って、本の持ち味を損なわないように、伝えてください。読み手は、どのように読むか事前に準備しておきます。子供の様子に応じて臨機応変に対応するとよいでしょう。」

この六つの手法は、特別支援学級や放課後等デイサービスでのお話し会の経験からも納得の出来る手法だが、例えば歌や音楽がとても効果があることや紙芝居が効果的であることなど、六つ以外にも項目を増やしたらどうかと考え、現段階では十三の方法（手法）を提起してみた。

また、児童図書館研究会が毎月発行している冊子『こどもの図書館』の二〇二一年五月号に掲載された記事「すべての子どもたちに本の楽しさを」特別支援学校での読み聞かせ」（「こどもの図書館静岡編集委員会」がとても参考になるので、現場の先生方の要望も踏まえた方法も加えてみた。

この記事は静岡県内にある二五の特別支援学校にアンケートしたもので、二十校からの回答を六ページにわたって掲載している。アンケートには五つの設問が

ある

一、貴校の対象障害種は次のうちどれですか。あてはまる番号に○をしてください(複数回答可)。

(一)視覚障害 (二)聴覚障害 (三)知的障害

(四)肢体不自由 (五)病弱・身体虚弱

二、普段から貴校小学部では読み聞かせやストーリーテリング等の読書推進活動を行っていますか？

(一)はい (二)いいえ (結果はすべての学校が「はい」だった) 三、児童は次のうちのジャンルが好きですか？

あてはまる番号に○をしてください。そのうち、特に好きな内容や本のタイトル、印象深いエピソードなどがあれば、教えてください(自由記述)。

(一)絵本 (二)ストーリーテリング(※語り手がお話を覚えて、直接聞き手に語ること)

(三)わらべ歌・手あそび (四)紙芝居 (五)

ブックトーク(※集団の子どもたちに対して、決められた時間内に複数の本を紹介すること) (六)その他

四、児童の特性から、読み聞かせ会やおはなし会を行う際に気を付けたほうがよい、避けたほうがよいこと

はどのようなことですか？(自由記述)

五、読み聞かせ会やおはなし会等のため来校する図書館員やボランティア等に伝えたいこと、希望したいことがあれば、お聞かせください(自由記述)。

この五つの内、四と五はお話し会を行う上でとても参考になるので、集計してまとめてみると次のような意見が上がっている。

A、環境と全体の構成に関して

一、環境

・ 静かな環境でお話しの声に集中できる環境が良い。(視覚障害)

・ 黒など地味な服装でお願いしたい。

・ 絵本に注目できるよう、教師は何も書かれていない黒板や壁を背にして読み聞かせを行っています。

二、全体構成

・ 始まりと終わりは歌とか決まり文句があると嬉し  
いです。(知的障害)

・ プログラムの中にパネルシアターや手遊びなど目先が変わって注目しやすいものを入れてほしい。

・ 一回の読み聞かせ会を十五分〜二十分程度とし、三冊くらいの絵本を読み聞かせること、小学部の低学

年は間に手遊びやわらべ歌を挟むことなどが、集中して聞くために有効だった。読み聞かせていただけの本を事前に教えていただきたいです。事前に学校でもその本を用意し読み聞かせることで当日の集中力が高まったり、読み聞かせ会の後にもすぐに繰り返し読んであげたりすることができるとです。（知的障害）

・見通しがもてないと不安になる子のためには、複数冊読む場合、何冊読むのか、何の絵本を読むのか、どの順番で読むのかなどを、一番はじめに伝えるとよいです。（知的障害・肢体不自由）

・読んだ本だけでなく、おすすめの本も紹介してほしい。

### 三、気を付けること

・分かりやすく大きいものを使用して、視覚支援をしていただきたい。（視覚障害）

・できれば大きめの本を使う（大型絵本や拡大した手作り絵本、パネルシアターなど）

・お話し会では大型絵本を用意していただけるとありがたいです。（肢体不自由）

・季節感のあるものや行事と関わりのあるもの。

・視覚的な手がかりのない中で話すのは避けてほし

い。（視覚障害）

・聴覚過敏の児童がいるため、突然の大きな音は出さない。

### 四、歌

・会の中に歌とお話しをバランスよく取り入れた方が絵本に注目したり、集中して聞いたりする。（肢体不自由）

・始まりと終わりは歌とか決まり文句があると嬉し  
いです。（知的障害）再掲

・お話しの中に歌などの音楽があると嬉しい。

・エプロンシアター、手袋人形、手遊び歌など、触って確認できるもの、歌って楽しめるものなどがあるとうれしい。（視覚障害）再掲

### B、内容に関して

・起承転結のストーリーが絵で伝わるもの。（聴覚障害）

・なぜかけると答える一体感が生まれる絵本を紹介してほしい。

・繰り返しのある分かりやすいお話しを期待して  
います。（知的障害）

・内容が分かりやすく、短い物語の本が好ましい。

・オノマトペや言葉遊びなどが入っていると楽しめる。

・重度重複障害の児童が分かりやすく、様々な感覚を刺激してくれるような本を紹介してほしい（感覚運動期段階の子供たちなので）。

・イラストはシンプルな方が絵本に注目する（肢体不自由）

C、やり方

・ゆっくり話していただきたい。

・表情や動きなど、表現を大きく豊かにお願いします。（聴覚障害）

・一般的な読み聞かせでは、本の世界に集中させたいからといって淡々と読んでしまう場合がある。この方法では、聞こえない子にとっては本を楽しむことが難しい。また、聞こえない子向けにゆっくり読むのは、一般の方にとってはまったりしすぎという印象を受けるかもしれないが、この子たちにとっては必要なことで、それで良いと思うことを分かってほしい。

（聴覚障害）

・動きがあると興味を持ちやすいのでパネルシアターは好きなのではないかと思えます。

・エプロンシアター、手袋人形、手遊び歌など、触って確認できるもの、歌って楽しめるものなどがあるとうれしい。（視覚障害）再掲

・早口や抑揚のない読み方は伝わりにくい。読み手の表情も見ているので、無表情は避けたい。（聴覚障害）

・絵本に出てくる小道具などが、具体物としてあると楽しめる。

以上の要望や注意点は概ね図書館で行っているお話し会でも共通するものだが、「見通しがもてないと不安になる子のためには、複数冊読む場合、何冊読むのか、何の絵本を読むのか、どの順番で読むのかなどを、一番はじめに伝えるとよいです。」や「聴覚過敏の児童がいるため、突然の大きな音は出さない。」などの意見は今まで余り気にしてこなかったため、参考になる。

ちなみに自由記述の気を付けたほうがよい、避けたほうがよいことはどのようなことですか？という問いで最も多かったのは、

・ゆっくり読む 六校

・長くなりすぎない 六校

・突然大きな声や音を出さない 五校

・大きい本 五校

・わかりやすい本 三校

・視覚的な手がかりのある本 三校

などだった。個別意見としては「怖い内容や一文が

長い話、複雑な話は避けています。(知)」「読み手

の表情も見ているので無表情は避けたい。(聴)」「

「暗い所や狭い中にあることが苦手な児童生徒もいる

(知)」などの意見もあった。

来校する図書館員やボランティア等に伝えたいこ

と、希望したいことでは、

・歌を活用してほしい 六校

・くり返しのある分かりやすい話 六校

・大型絵本 四校

・絵本に出てくる物や小道具などの具体物があると

楽しめる 三校

・触れるもの(具体物) 三校

・表情や動きなど表現を大きく豊かにお願ひします

三校

などが上がっている。

また、設問三の特に好きな内容や本のタイトルとし

て以下のような本が複数書かれていた。

・『へんしんトンネル』などの「へんしんシリ

ズ」(あきやまただし作 金の星社) 九校

・『だるまさんが』などの「だるまさんシリーズ」

(かがくいひろし作 ブロンズ社) 七校

・『おおきなかぶ』(A・トルストイ再話、内田莉

莎子訳、佐藤忠良画 福音館書店) 六校

・『はらぺこあおむし』(エリック・カール作、も

りひさし訳 偕成社) 六校

・『ねこのピート』などの「ねこのピートシリ

ズ」(エリック・リトウイン著、ジェームス・ディ

ンイラスト、大友剛翻訳 ひさかたチャイルド) 三

校

・『さつまのおいも』(中川ひろたか文、村上康成

絵 童心社) 三校

・『ぞうくんのさんぽ』などの「ぞうくんシリ

ズ」(なかのひろたか作・絵 福音館書店) 二校

・『ノントアンぶんこのせて』などの「ノントアンシ

リーズ」(キヨノサチコ作 偕成社) 二校

・『わにわにのおふる』などの「わにわにシリ

ズ」(小風さち文、山口マオ絵 福音館書店) 二校

## 編集担当者交代にあたって

木下 和久

このたび、17年間続いた編集担当を、宮澤義文さんに交代して頂くことになりました。90歳を迎えた年齢のことを考えると、いつまでもこの仕事を一人で抱え込んでいたのでは、いつ何時突然倒れてしまうかも知れない危険性を、想定しないわけには行きません。一応、元気に過ごしているようでも、体力が落ちたことは確実です。

当誌の創刊以来の歴史を振り返ってみますと、発行母体である横浜漢点字羽化の会が現在の規模で発足したのは1996年4月のことで、それから1年後に、当誌が創刊されました。雑誌の体裁を整え、印刷・製本をいかに少ない予算で確実にを行うかをきめる創刊時の大きな仕事は、当時の会員で雑誌製作などの経験を持つ宗助悦子さんという方がなさって下さいました。私は、そういう作業に大きな興味を持ち、印刷・製本の作業には最初から携わってきました。その頃こうい

う少数数の雑誌を印刷するのに最適なデジタル製版・謄写版方式のリソグラフィという印刷機が、行政の福祉サービスの一環として、各所に配置され、ボランティア活動に安い費用で自由に使用できるような環境が整備されていきました。

当誌は、創刊当時隔月刊として年間6回の発行が行われていました。宗助さんは、3年あまり編集担当をされましたが、終わり近くの3回は平野桃子さんに、担当を譲っています。そのあとは、宇田川幸子さんが6年近く担当されましたが、2006年4月から私が担当を引き継いで今日に至りました。

今までに発行してきた機関誌「うか」は、各号とも数冊ずつは保管するようにしてきましたが、これだけ号数がたまりますと、その量が膨大なものになり、とても書斎の本棚には収容できなくなりました。そこで、保管はPDFファイルという電子ファイルにして、パソコンに収納することにし、羽化の会のホームページ (<http://www.ukanokai-web.jp>) にも全数収納して、どなたでも自由に閲覧・ダウンロードできるようにしてあります。

江戸時代の女性漢詩人（三）

夏夜 かや 江馬細香 えまさいこう

雨晴庭上竹風多 レテ

新月如眉織影斜 クノ

深夜貪涼窓不掩 リテヲ

暗香和枕合歡花 スニ

『湘夢遺稿』



細香（墨竹画）

雨晴れて 庭上 竹風多し おほ

新月 眉のごとく 織影斜めなり せんえい

深夜 涼を貪りて 窓掩はず むさぼ おほ

暗香 枕に和す 合歡花 ごうかんか

あめはれていていじょうちくふうおおし  
しんげつまゆのごとくせんえいななめなり  
しんやりようをむさぼりてまどおおわず  
あんこうまくらにわすごうかんか

雨はあがり空は晴れ、庭には涼しい夜風が竹をそよがせて盛んに吹いている。三日月は眉のように細く斜めにかかっている。夜ふけ、涼を求めて窓をあけ放しにしていると、どこからともなくねむの花の香りが枕もとに漂ってくる。

『漢文名作選「第2集」5 日本  
漢詩文』（大修館書店）による。

ごうかんか ねむ  
合歡花 合歡の花

ねむはマメ科の落葉高木で夏に淡紅色の花をひらく。夜には葉が合わさってとじるので、合昏（がっこん）、夜合（やごう）ともいう。細香の若い頃の作品。







夏 夜 江 馬 細 香

雨 晴 レテ 庭 上 竹風 多 シ

新 月如 ク 眉 ノ 織 影 斜 メナリ

深 夜 貪 リテ 涼 ヲ 窓 不 掩 ハ

暗 香 和 ス 枕 ニ 合 歡 花

江馬細香（1787～1861年）江戸後期の詩人・画家。

<sup>みの</sup>美濃大垣藩医、<sup>えまらんさい</sup>江馬蘭齋の長女。名は裊、たお、多保。幼い頃より絵を描くことを好み、父から詩文の手ほどきをうけた。

細香27歳の時、美濃遊歴中の<sup>らいさんよう</sup>頼山陽と出会う。山陽は結婚をとまで思ったようだが、実現せず、以後二人は師弟の関係を続ける。

文政の初年頃、<sup>やながわせいがん</sup>梁川星巖らと詩社「<sup>はくおうしゃ</sup>白鷗社」を結成し、郷里の文人達との交流を深めた。生涯を独身で過ごす。

<sup>しょうむいこう</sup>『湘夢遺稿』 = 山陽の評を付した細香の詩集。湘夢は細香の号。  
死後（明治4年）に出版された。

江戸時代末の文人、山陽や星巖とともに<sup>さいひん</sup>原采蘋（「うか」123号掲載）や、細香と同郷の紅蘭（同125号掲載）らの女流詩人達が活躍し、独自の生き方をした。

1992年に<sup>きゅうこ</sup>汲古書院より、江馬細香詩集『湘夢遺稿』（入<sup>いりたにせんすけ</sup>谷仙介監修・門<sup>かどれいこ</sup>玲子訳注）が出版されている。

「美濃白鷗社集会の図」（部分）  
1822年雲林山人・画  
細香36歳。前に座る女性が細香。  
後ろが梁川星巖の妻紅蘭。





納入しております資料について。

一 二〇二二年度の賛助会費について、

お詫びと訂正

本誌前号（一二五号）で、昨年度（二〇二二年度）にお寄せいただきました賛助会費のご報告を致しましたが、お一方のご芳名を落としておりました。誠に失礼致しました。

中村裕一様

です。会計の集計が遅れましたことによるものでした。深く陳謝申し上げます。大変ありがとうございます。有効に使用させていただきます。

二 国立国会図書館を通して、サピエ図書館へ

現在本会では、月刊として以下の資料を、サピエ図書館に納入しております。何れもBMT形式の、漢字表記の電子データです。

① 「歴史のダイヤグラム」（原武史著）

朝日新聞の土曜版に連載されている“be on Saturday”の欄、現在は政治学者の原武史先生が、ご専門の分野ではなく、鉄道ファンの立場から書き起こしておられますエッセイです。国鉄からJRへ、新幹線網の充実、新たな鉄道の開通、しかしそれによって失われ忘れ去られる数多のことごと、その中にご専門の分野から歴史的世相を切り解いて見せて下さいます。大変優しく読み答えるの一文です。

② 「朝日歌壇」・「朝日俳壇」

毎週日曜日の朝日新聞に掲載されております短歌と

俳句の欄を、一月分づつまとめたものです。この欄は、週ごとに投歌・投句された歌・句の中から、それぞれ四方の選者の先生方が、十首・十句を選出されて掲載されたものです。

選者の先生方のお名前は、

歌壇… 佐佐木幸綱先生・高野公彦先生・永田和宏先生・馬場あき子先生。

俳壇… 大串章先生・小林貴子先生・高山れおな先生・長谷川權先生です。

四月分の中から、私（岡田）の心に残った歌・句を一つづつご紹介しましょう。

休刊の日にはゆったり歌を詠む烏露（うろ）戦争の記事を離れて（中田毅氏）

春暁や何かくれよと窓の猫（中上庄一郎氏）

### ③読売新聞・朝日新聞に掲載されている健康記事か

ら、読売新聞は「医療ルネサンス」の中から一つ、朝日新聞は、毎週水曜日に掲載されている「医療」を漢字訳しております。五月分として漢字訳しましたものは、読売新聞では、『医療ルネサンス』から、

〈子どものぜんそく 1〉、朝日新聞では『医療』、『ダウン症 人生を支えるために』（5/10）、「コ

ロナ5類 専門家たちの葛藤 1」（5/17）、「コ

ロナ5類 専門家たちの葛藤 2」（5/24）、「コ

ロナ5類 専門家たちの葛藤 3」（5/31）です。

以上はサピエ図書館のサイトからダウンロードするか、各点字図書館・図書館の視覚障害者サービスにリクエストしてお取り寄せいただけます。

ご利用下さい。

## 編集後記

長い間「うか」の編集を担当していただきました木下様が高齢ということと、後任として宮澤が担当することになりました。

今まで「うか」の発行に際し、印刷・発送のお手伝いをさせていただいておりました。編集作業には一切携わってはいませんでした。木下様は55号から125号まで長い間担当されたことを思うとそのエネルギーは驚くばかりです。私は冊子作成ソフト「一太郎」も初めてで、不安ばかりですが木下様の全面的な御指導・御協力を仰ぎ努力をしたと思います。宜しくお願いたします。

さて、今年の梅雨は、梅雨前線による大雨、線状降水帯、土石流等報道を見聞きするたび被災者のご苦労が頭をよぎります。一方、梅雨の晴れ間には道ばたに、紫やピンク、白など色とりどりの紫陽花や淡い紫のクレマチス、真っ赤なバラ、など心を和ませてくれます。自然はままならないものですね。

宮澤義文

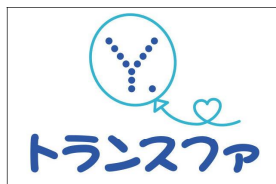
## (有) 横浜トランスファ福祉サービス

障害者自立支援法の下、障害者にガイドヘルパーを派遣して、外出を支援しています。対象は、横浜市在住・在宅の、視覚・肢体・知的重度障害者。

常時募集・ガイドヘルパー：資格・ホームヘルパー2級以上、および視覚・肢体障害者移動介護研修修了。

業務概要：上記障害者の外出支援。詳細は担当・柳田まで。

研修者募集：弊社では、ガイドヘルパー（視覚障害者）の資格取得研修を実施致します。詳細はホームページで。



URL: [www.ytrans.net](http://www.ytrans.net)

〒231-0063横浜市中区花咲町1-46-1

GSプラザ桜木町1105

電話: 045-263-0306

FAX: 045-263-0316

E-MAIL (岡田健嗣) : [okada\\_tr\\_eib@ybb.ne.jp](mailto:okada_tr_eib@ybb.ne.jp)

横浜漢点字羽化の会 URL : <http://www.ukanokai-web.jp/>

《表紙絵 岡 稲子》 次回の発行は2023年10月15日です。

※本誌(活字版・DAISY版・ディスク版)の無断転載は固くお断りします。